

2026 Spring

# 母校通信

157号

*"Mastery for Service"*



巻頭企画

## 原田の森から次世代へ

—『KGルネサンス』が呼び覚ます関学の原点

同窓会公式アプリ リリース!

アプリログインで **QUOカードPay**  
プレゼント

詳細・応募は本誌10ページをご覧ください



関西学院同窓会

# 原田の森から次世代へ —『KGルネサンス』が呼び覚ます関学の原点

少子化、社会構造の変化、価値観の多様化など学院を取り巻く環境が大きく変化しています。

こうした状況のなか、関西学院では2025年5月31日に就任した

荻野昌弘・関西学院理事長が「KGルネサンス」を掲げています。

「KGルネサンス」とは何なのか。関学はこれからどんな学院を目指していくのか。

本対談では、荻野理事長と亀岡剛・関西学院同窓会会長が学院と同窓会、それぞれの視点から描く未来像と、その交わる場所を語り合っていました。



**荻野 昌弘** × **亀岡 剛**  
 関西学院理事長 × 関西学院同窓会会長

私はこれを危機ではなく、未来を創るための転換点にしたいと考えています。その決意を込めて掲げたのが「KGルネサンス」です。

**亀岡** 理事長のその強い問題意識のもとで掲げられた「KGルネサンス」についてぜひ詳しく教えてください。

**荻野** 「ルネサンス」には、「再生・蘇生する」という意味があります。今の関学に必要なのは、新しい何かを付け足すことではなく、本来持つ「キリスト教主義に基づく普遍的な価値」に立ち返り、現代にふさわしい形で甦らせること。その思いを「再生」という言葉に託し、「KGルネサンス」と名付けました。

## 建学の精神を混迷する現代の「希望」に変える

**荻野** 世界では分断や対立が深まり、「自分さえよければいい」という風潮が強まっています。だからこそ、異なる価値観を尊重し、対話を通じて理解を深めるといふ姿勢は、まさに私たち卒業生が社会の中で実践すべき姿そのものです。

**亀岡** 関学が大切にしてきた精神の力強さを感じます。異なる価値観を尊重し、対話を通じて理解を深めるといふ姿勢は、まさに私たち卒業生が社会の中で実践すべき姿そのものです。組織が大きくなるほど、こうした精神をどのようにな次の世代へ伝えていくかが重要になってきています。学生の学びや日常の中で、関学の原点が自然と息づくような環境作り。これは、卒業生と

しても是非お願いしたい点です。

**荻野** その通りです。理念を単なる言葉で終わらせてはいけません。学生たちには、自らを鍛える目的は、他者や社会に仕えるためであることを学問と実践を通じて腹に落としてほしい。その土台があつて初めて、境界を超えて他者とながら「世界市民」として社会へ羽ばたかせることができるのです。そのためにも学生たちの精神的な土台に私たちの建学の精神を根づかせて、社会に送り出すことこそ、使命だと強く感じています。

## 神戸キャンパスは「知の交差点」になる

**荻野** 今日の関学の原点は創立の地・原田の森にあります。そこでは、宣教師たちのもと、異文化理解の精神が浸透し、多様な人々や文化が集まり、キリスト教主義に基づいた普遍性を追求する教育・研究が行われてきました。いま、この創立の地・原田の森に、神戸キャンパスの創設を進めています。

かつてベッツ院長は、関学をあらゆる対立するものの「中心」にあると表現しました。この言葉のように、異なる要素が出会い、新たな知が生まれる「知の交差点」を神戸キャンパスに誕生させたいと考えています。

**亀岡** 原田の森に関学が戻ってくる。卒業生にとっても胸が躍る未来が、いま動き始めています。こうした未来を支えるためには、確固たる経営基盤も不可欠になりますね。

## 「ガバナンスの再構築」と財政基盤の強化

**荻野** はい。「KGルネサンス」を実現していくためには、理念の再生だけでなく、経営のあり方そのものを問い直す必要があります。必要な機能を見極め、意義ある取り組みは積極的に進めつつ、時代に合せて最適な形へと進化させていく。その判断を確実に行える経営体制を再構築していきたいと考えています。そのために、財政改革、組織改革、広報戦略の強化を一体的に進め、関学が次の時代に向けて持続的に発展できる基盤を強化していきます。現在、創立150周年を見据えた中長期の計画作りも進めており、全学的な視点から、教育・研究・経営のあり方を改めて問い直してるところです。そのうえで、必要な改革を段階的に実行していく体制を整えていきます。

「ガバナンスの再構築」と財政基盤の強化は、関西学院が次の時代へ進むための重要な柱です。



## 量的拡大から質を問い直す「再生」へ

いま、大学を取り巻く環境をどのように捉えていますか。

**荻野** 少子化が進み社会構造の変化により、大学を取り巻く環境は大きな局面を迎えています。関西学院もこの20年、社会の変化に対応しながら拡大を進めてきましたが、今は次の時代にふさわしい形へと再構築する重要な時期に差し掛かっています。



原田の森 ブランチ・メモリアル・チャペル 1904年 献堂式

「関学をこれから誰が支えていくのか」という問いに向き合ったとき、傍観者ではいられないと感じました。



亀岡剛・関西学院同窓会会長  
1979年経済学部卒。同年4月よりシェル石油株式会社（現昭和シェル石油）入社。近畿支店長、副社長などを経て、2015年代表取締役社長、グループCEOに。2021年関西学院同窓会副会長、2024年関西学院同窓会会長。

### 同窓会と共に実現する「KGLネサンス」

**亀岡** 関西学院が150周年に向けて本格的に変革に踏み出していることを、改めて強く感じました。理念の再生と経営改革を同時に進めるといえるのは、並大抵のことではありません。しかし、だからこそ卒業生の存在が欠かせないと私は思っています。

関学は、建学以来「Mastery for Service」の精神を掲げ、社会の中で責任ある行動を取れる人材を育ててきました。卒業生はその精神を体現し、さまざまな分野で活躍しています。

今、理事長がお話くださった改革を支えるうえでも、卒業生のネットワークや経験、そして母校への思いは大きな力になるはずです。同窓会としても、母校

の挑戦をしっかり受け止め、卒業生が関学の未来作りに主体的に関わっていただけるような環境を整えていきたいと考えています。

**荻野** 大変心強いお言葉です。理念は社会で実践されてこそ価値を持ちます。その役割を担ってくださっているのが、日本全国・世界中に広がる卒業生のみなさんです。卒業生と共に価値を育てていくことができこそ、「KGLネサンス」は実現します。

### 卒業生が体現する「世界市民」

**荻野** 理事長に就任して以来、多くの卒業生とお会いしてきました。特に若い世代の皆さんと話していると、たとえ語学力が完璧でなくとも自分の感覚を信じて海外へ飛び出したり、違いを恐れず

他者の輪へ飛び込んでいたり。その先に自らの道を切り拓いている人が実に多い。その姿は「世界市民」に通じるものと感じています。亀岡さんも若いころは、そうやって産業界で自身の道を切り拓いてこられたのではないですか？

**亀岡** たしかに私自身もそうでした。初めて海外赴任した時、語学力や専門知識では、自分より優秀な人はいくらでもいた。しかし、最終的に成果を上げて帰ってこられたのは、関学の先生方や友人との対話の中で身につけた力をフルに発揮できたからです。

相手の立場に立つて、対話を通じて関係を築いていく。そのプロセスが、仕事を前に進めてくれました。石油の仕事では、欧米、中東、アジアなど、宗教も文化も異なる相手との交渉が日常です。そのときに、自然と相手をリスペクトで

した。

**荻野** 関学の文化は、理念が日々の教育や学生生活の中で息づいているからこそ、本物として受け継がれてきました。クリスマス礼拝やチャペルの祈り。その一つひとつに宿る「真の祈り」や「本物の美しさ」は、長い年月の積み重ねが生み出した関学の財産です。

学生たちが日々の生活の中で、こうした「目に見えない本質的な価値」を自然と感じ取れる環境を、これからも守り抜きたいと考えています。

**亀岡** 理事長のお話を伺い、関学が大切にしてきた理念や精神が、単なる言葉ではなく、日々の営みの中で「生きた文化」として根付き、私たちの内側に確かな価値観を育ててくれたのだと改めて思いました。

関学の理念は、現実から目をそらし

た理想論ではありません。自らを磨き、他者に向き合い、社会の中で責任を果たしていくという、極めて実践的な精神です。私自身、学生時代に身につけたその価値観が、昭和シェル石油での仕事を含め、卒業後の人生を支え続けてくれたことを身をもって実感しています。だからこそ、母校が守り続けてきたこの「本物の文化」を、次の世代へつなぐことに、卒業生としての使命を感じています。

### 「傍観者」ではなく「母校を支える共同体へ」

—ここで改めて、亀岡会長が目指す「強固な同窓会」についても教えてください。

**亀岡** 同窓会が掲げるビジョンは、

「世界で一番、母校に貢献する同窓会」「世界で一番、社会に貢献する同窓会」「世界で一番、会員の幸せを願う同窓会」の3つです。

そのうえで、私たちが目指すのは、母校の永続的な発展に貢献すること。卒業生が社会で実践する「Mastery for Service」を支え、学生への応援、ネットワーク作り、寄付など、さまざまな形で母校を支える共同体でありたいと考えています。

大学を取り巻く環境が大きく変わるなかで、「関学をこれから誰が支えていくのか」という問いに向き合ったとき、傍観者ではいられないと感じました。関学が勢いを失えば、そこで学んだ私たちの誇りも揺らいでしまう。私たち卒業生が力を合わせて母校を支え、次の世代につないでいく存在であればこそ、同窓会

きたことは非常に大きかったです。

**荻野** それこそが私が考える「世界市民」です。国や属性で線を引かず、どこにいても自分の価値観を持ち、相手を尊重しながら共に社会を作る人。これは、座学や短期間の海外経験だけで身につくものではありません。他国や他者との間に垣根を作らず、常に外へと心を開いてきた関学の風土に身を置くことで、少しずつ、しかし確実に培われていく資質だと思います。

### 理念があるから文化が本物になる

**亀岡** 各学部で執り行われ、祈りや感謝から一日がスタートする。私も学生時代に当たり前のように経験させてもらいま

の存在意義は続いていくのだと思います。

そのためにも、同窓会も時代に合わせた役割を更新する必要があります。これまでの延長ではなく、多様な卒業生が主体的に関われる同窓会へと進化していくことが、「強固な同窓会」への道です。

**荻野** いまのお話から、同窓会がこれからの関学にとって欠かせない存在であることを改めて実感しているところです。

**亀岡** さらに同窓会は、卒業生一人ひとりが社会で成長し続けるための「相互研鑽の場」でありたいと考えています。懇親や親睦にとどまらず、学びや気づきを得ながら、「Mastery for Service」を社会で実践し、共に磨き歩んでいく。そのためです。

卒業して社会に出たからの40年から50年という長い期間、「関学同窓の一員だからこそ成長できた」「関学同窓で本当に

新しい何かを付け足すことではなく、本来持つ価値を蘇らせることが、いまの関学には必要だと思っています。



荻野昌弘・関西学院理事長  
1982年モンペリエ・ポール・ヴァレリー大学社会学部・民族学学科卒。1983年パリ・ナンテール大学大学院社会科学部研究科修士課程修了。1988年パリ第7大学大学院社会科学部研究科博士課程修了。1990年に関西学院大学社会学部専任講師に。2000年同教授、2012年同社会学部長、2022年学校法人関西学院理事、2025年同理事長。



## つながりを「貢献力」に変える 同窓ネットワーク

―母校の発展に貢献するために  
具体的にはどんな取り組みを  
しているのでしょうか。

**亀岡** 一つは、産業界の各業界における  
ネットワーク作りです。不動産・旅行・  
金融・マスコミ・地方公共団体など、そ  
れぞれの分野で活躍する卒業生が出会  
い、互いの経験や知見を持ち寄ることで  
新たな視点や発想が生まれます。そのつ  
ながりが、各分野での実践をさらに広げ、  
社会の中の新たな価値創出につながっ  
ていきます。

そして、卒業生が各分野でどのように  
「Mastery for Service」を実践し、どの  
ような価値を生み出しているのかを、母  
校と共有し、次世代の学生へつないでい  
くこと。これは、卒業生だからこそでき  
る大きな貢献です。学生たちが、将来ど  
の業界に進んでも、私たちが大切にしてい  
きた普遍的な価値観を共有する関学人  
脈に支えられる。そうしたネットワーク  
を、意識的に育てていきたいと思ってい  
ます。

## 世界中の同窓が 現役学生の一步を支える

**亀岡** また、現役学生への直接的な支  
援も行っています。なかでも力を入れて  
いるのが、海外留学の支援。世界各地に  
同窓会の支部があることは、関学同窓

も女性卒業生の活躍を後押しすること  
が、これまで以上に重要になってきてい  
ます。

こうした状況を踏まえ、同窓会では  
「総合大学の中で女性同窓が一番輝く同  
窓会」を掲げています。現在、女性役  
員の登用やネットワーク作りにも力を入  
れ、女性メンバーの活動も非常に活発化  
してきています。

**荻野** より多様な卒業生が生き生きと  
活躍する姿は、学生にとって最高のロー  
ルモデルとなります。すでに社会で活躍  
している女性卒業生の存在は女子学生に  
とって大きな励みになると思います。

## 想いを形に変え 次世代の学びを支える 「寄付」という貢献

**亀岡** そして、もう一つ。重要なのが財  
政面の支援の強化です。母校の教育と研  
究を支えるため、寄付という形での貢献  
は不可欠だと考えています。寄付は、母  
校の未来を支える大切なアクションの一  
つです。

卒業生が「支援したい」と思ったとき  
に、寄付も含めて、すぐ行動に移せるよ  
うな仕組み作りが大切です。その思いを  
行動につなげられるよう、取り組んでい  
きたいと思っています。

**荻野** 非常にありがたく思います。  
もともと関学は、寄付によって設立さ  
れた学校です。私たちが支えているのは、  
そういった一人ひとりの想いであり、支援  
に他なりません。



会の大きな強みです。学生が海外に出る  
際には、現地の卒業生が交流の場を設  
けています。

**荻野** 海外で先輩方に迎えられる学生  
たちは、帰国後、目に見えて顔つきが変  
わります。世界で自分が活躍する姿をイ  
メージしやすくなるのでしよう。そんな  
目標が彼らを一回り大きく成長させてく  
れているように思います。

同窓会のバックアップは、留学にとど  
まらず、部活動への熱心な指導や激励、  
さらにはキャリア形成におけるアドバイス  
やネットワークの提供など、多岐にわた  
る場面で強く実感しているところです。

**亀岡** 同窓会は、これまで独自の強みを  
活かして活動してきましたが、今後は学  
生を支える学院内のさまざまなセクショ  
ンと連携を深め、より求められる具体的  
な支援を届けられる体制を構築してい  
きたいと考えています。国際連携機構、学  
生活動支援機構、キャリアセンター、ポ



サンフランシスコ・シリコンバレー支部留学生4名と新年会 2026.1

私の博士論文を読んでくれていて、「今  
回はできるだけ変わつた人を探ろうと  
思っていた」と言うんですよ(笑)。今  
思えば、その一言に、関学らしさが詰ま  
っていたように感じます。

初めてキャンパスを訪れたとき、「ここ  
だ」と直感しました。日本社会の中で、  
とても自由で、開かれた空間があつたの  
です。学部や専門を越えて人が交わり、  
議論が生まれ、刺激を受け合う。振り  
返れば、関学で出会った教員や学生との  
対話の中で、私の研究も人生も大きく  
動いてきたように思います。多様な価値  
観を受け止め、人を前に進ませてくれる  
場所。それが、私にとっての関学です。

そして今、その関学の良さを次の時代  
につないでいきたいという強い思いから、  
「KGLネサンス」を掲げています。ぜひ、  
「KGLネサンス」を、共に歩む取り組  
みとして受け止めていただけたらうれし  
いです。同窓の皆さんと一緒に、未来の  
関学を創っていくことを、心から楽し  
みにしています。

## 卒業は終わりではなく 関わりの始まり

**亀岡** 世界各国、日本全国にいる卒業  
生の皆さん。私たちは、卒業したいまま  
なお、母校の未来を担う当事者である  
ということをぜひ、心に留めていただ  
きたいと思っています。

関学がいま推し進めている「KGLネ  
サンス」は、次の時代を見据えた極めて  
重要な挑戦です。私たち同窓会は、この

ランティアセンターなどと協働し、現役  
学生の挑戦を後押しできる仕組みを作っ  
ていきます。

## 支部の枠を超えた 広域エリア活動と 輝く女性同窓の力

**亀岡** このような同窓会の活動に、よ  
り多様な卒業生が関われるように、首  
都圏・関西圏・九州圏といった広域エリ  
アでの取り組みもスタートします。同窓  
会活動は各地域の支部単位で行われるの  
ですが、細分化すると活動が広がりにく  
く、新しい参加者を迎え入れにくい面も  
ありました。支部の枠を超えた取り組み  
により、若手や新たなメンバーが参加し  
やすくなったという声が出ています。

また、関学では女子学生の割合が年々  
増え、現在は男女比が5:5とほぼ同数。  
学生の構成が変わる中で、同窓会として



KGノレイユの会(働くKG女性を応援する会)  
就職内定者座談会 2025.2

取り組みを全力で支持し、共に支えてい  
きたいと考えています。

卒業後も続く長い時間の中で、母校  
と共に歩み、支え、育てていく。その積  
み重ねが、関学を次の時代へと導く力に  
なります。

学生への応援、後輩への一言、同窓会  
活動への参加、専門性を活かした協力、  
そして寄付という形での支援。どの形も、  
母校の未来を創る大切なアクションです。  
皆さん一人ひとりの力が重なれば、関  
学は今の良さを大切にしながら、さらに  
輝きを増し、次の時代へと歩みを進める  
ことができます。ぜひ共に、母校の発展  
を成し遂げていきましょう。

## 【編集後記】

今回の対談を通じて、「KGLネ  
サンス」に込められた熱い思いが伝  
わってきました。印象的だったのは、  
荻野理事長の改革への強い覚悟と、  
亀岡会長の母校を支えたいという深  
い決意が、びつたりと重なっていた  
ことです。そして、「卒業は終わり  
ではなく、関わりの始まり」という  
言葉には、一人の卒業生として背中  
を押される気持ちになりました。

創立の地である原田の森から、ま  
た新しい歴史が始まります。卒業生  
一人ひとりが「世界市民」として母  
校とつながり、共に歩んでいく。そ  
んなワクワクするような未来を感じ  
ました。

広報委員長 梨木 祐亮

# 各試合を PICK UP!

## リーグ1節 VS 立命館大学



初戦の相手は春季トーナメントで敗北を喫した立命大。終始スクラム、モールで圧倒した関学が41-17で勝利し、春の雪辱を果たす。POMでは新井が選出された。

## TOUGH CHOICE

今年度のスローガンには、ひたむきに泥臭くプレーし、勝利を追求するという思いが込められている。全国ベスト4の夢に向かって戦う姿は多くの人の心を揺さぶり、愛し愛されるチームを体現した。

## リーグ2節 VS 同志社大学



同大との対戦では、前半から関学ペースで試合を展開し、開幕連勝スタートとなる。POMは1トライを決め、ディフェンスで大きな存在感を示した小林典が受賞した。

## リーグ3節 VS 摂南大学



見事な逆転劇を見せた試合だった。前半は摂南大にチャンスを奪われ、苦しい展開が続く。しかし、後半からはフォワードで圧倒し、関学が勝利をつかみ取った。

## リーグ4節 VS 関西大学



関大との一戦は、試合を通して相手につけ入る隙を与えない展開となる。また、リザーブも役割を果たして勝利に大きく貢献。見事開幕4連勝を飾った。

## リーグ最終節 VS 近畿大学



迎えた最終節は因縁の近大とのリベンジマッチ。リーダー陣がけがで不在の中、終始一進一退の攻防を繰り広げるも、最後まで堅守を崩さず戦い抜いた。

## 選手権3回戦 VS 福岡工業大学



全国大学ラグビーフットボール選手権大会初戦の相手は福工大。小林典が5トライを決め、存在感を放つ。アタック力で圧倒した関学が白星を挙げ、準々決勝へ駒を進めた。



ひたむきに戦った1年間  
ベスト4の夢は敗れるも  
思いは後輩へと託された

# 2年振りの選手権ベスト8

2年ぶりに出場を果たした大学選手権。昨年の悔しさを胸に、彼らは泥臭く、ひたむきに戦い続けた。仲間とともにラグビーに向き合った日々。ベスト4の目標にはあと一歩届かなかったものの、この1年間で彼らは確かな成長を遂げ、強くなった。偉大な背中とは、次の世代へと受け継がれる。

勝利を信じ、朱紺戦士たちは笛が鳴る瞬間まで全力で戦い抜いた。迎えた全国大学ラグビーフットボール選手権大会・準々決勝は明大との対戦。関東大学対抗戦A1位の強豪を前にしながらも、決して屈することはなかった。前半14分のNo.8・FL小林典大(社4)のトライで勢いづく。一時はリードする展開となり、会場に響き渡る声援が選手たちを後押しした。後半に追加点を獲得するも、相手の猛攻を止めることができず、19-46でノーサイド。ベスト4進出には届かなかったが「できることはすべて出し切れた。自分たちのラグビーが通用すると証明できたと思う」。そう語るPR中田徳響主将(人4)の表情に曇りはなかった。

9月14日に開幕したムロオ関西大学

ラグビーAリーグ。春季トーナメントで敗れた立命大に勝利すると、勢いそのままに開幕4連勝を飾った。しかし、続く天理大戦では無得点で敗北を喫し、京産大戦でも接戦をものにできず。そんな中臨んだ最終節は、近大との一戦。「今年は絶対に勝ってやる」。全員で気持ちを入れ替え、勝利を手繰り寄せた。ついに迎えた全国大学ラグビーフットボール選手権大会・初戦は福工大と対戦し、53-21で快勝。準々決勝に駒を進めた。仲間とともに駆け抜けた4年間。昨年の関西リーグでは、大学選手権出場が懸かった近大戦に僅差で敗れ、全国の舞台に立つことは叶わなかった。「先輩方の悔しさを晴らしたい」。関学にとって初となるベスト4を目標に、1年間選手たちは歩みを止めるこ

とはなかった。中田は「本当に充実した4年間だった」と話す。着実にチームの強度を上げ、十分に勝てる位置にまで導いてきた。彼らの4年間の奮闘は、人々の心を揺さぶり、誰もが応援したくなるチームを作り上げただろう。

「全員がハードワークする文化をつくることができたと思う」。4年生のけがが相次いだ中でも、チーム力は揺るがなかった。FB・SO新井竜之介(社1)やLO・No.8池田康太郎(社3)をはじめとした下級生の力強いプレーが、関学の戦力を底上げする。中田組は幕を閉じたが、ひたむきさはこれからも引き継がれるはずだ。「必ず国立に立てる」。その思いは後輩たちへと託された。まだ見ぬ景色を目指し、朱紺戦士たちは再び歩み始める。

秋季リーグ	第2節 対同大 34-21	第4節 対関大 36-8	第6節 対京産大 22-28	大学選手権 3回戦 対福工大 53-21
第1節 対立命大 41-17	第3節 対摂南大 26-20	第5節 対天理大 0-41	最終節 対近大 40-31	準々決勝 対明大 19-46

# KG ATHLETICS

昨秋も、関学アスリートがそれぞれの舞台で活躍を見せました。  
中でも輝かしい戦績を収めた9部をご紹介します。

## 拳法部

12/7

第70回全日本学生拳法選手権大会にて、男子団体が日本一に輝く。46年ぶりの快挙達成に、選手は涙した。



## サッカー部男子

12/13~24

第74回全日本大学サッカー選手権大会にて、3位入賞。スローガンに「奪冠」を掲げ、快進撃を見せ続けた。



## 重量挙げ部

11/29~30

第72回関西学生ウエイトリフティング選手権大会にて、団体5位入賞。総力戦で快挙を成し遂げた。



## スケート部スピード部門

10/18~19

第98回日本学生氷上競技選手権大会ショートトラック競技にて、創部初の男女総合優勝を達成した。



## 卓球部男子

8/25~9/5

関西学生卓球秋季リーグ戦にて、無敗の圧倒的な強さを見せて優勝。3季ぶりの頂点に振り返いた。



## バドミントン部女子

11/7~8

第76回全日本学生バドミントン大学対抗戦にて、女子団体が12年ぶりとなる3位入賞を果たした。



## ハンドボール部

11/2~6

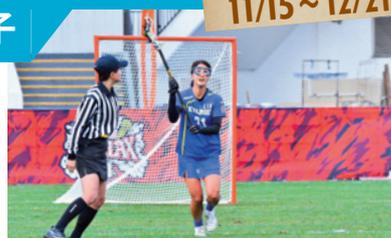
全日本学生ハンドボール選手権大会において、創部初となる女子ベスト4、男子準優勝を成し遂げた。



## ラクロス部女子

11/15~12/21

第16回ラクロス全日本大学選手権大会にて優勝。最後まで戦い抜き、7年ぶりに日本一に輝いた。



## 陸上競技部

11/15

第87回関西学生対校駅伝競走大会にて、2年連続準優勝を収めた。来年こそは優勝を目指し、王座奪還を誓う。



## 関学スポーツとは

私たち体育会学生本部編集部は体育会の広報機関です。体育会42部50パートの試合に出向き、取材を敢行。紙面やSNSアカウント、公式サイト等にて幅広く広報を行っています。関学スポーツは1961年(昭和36年)4月に創刊され、発刊号数は2025年11月で284号を数えます(途中休刊あり)。

## 関学体育会のすべてはこちらから

### ホームページ



ホームページ

関学体育会の試合速報を通し、母校の「今」をご覧いただけます。また、過去の試合結果や主将のコメントや、企画インタビューなど、数多くのコンテンツをご用意しております。また、定期購読の詳細も掲載しておりますので、ぜひご一読ください。

### SNS アカウント



Instagram



X (旧 Twitter)

関学スポーツは、リアルタイムでの試合速報や、選手の号外ピラなど、様々な情報を SNS にて発信しています。ぜひフォロー&チェックのほど、よろしくお願いたします!